

令和5年度 第1回北広島市食育推進懇談会会議録

日 時	令和6年3月18日（月）18時30分～19時40分
会 場	保健センター検査室
出席委員	東隆史委員、三戸昌子委員、長島博子委員 米村恒委員、藤野十志幸委員、 鈴木里絵子委員、藤井智子委員、槌本浩司委員
欠席委員	湊隆委員、板橋裕子委員、
事務局	奥山衛保健福祉部長、影久真美健康推進課長、 伊達千秋防災食育施設整備担当参事、山田孝博農政課長 槇田美有紀健康推進課主査、木村綾香健康推進課主任
傍聴人	0名

1. 開会

2. 選任書の交付

3. 保健福祉部長あいさつ

4. 委員自己紹介

5. 議事

（1）食育推進計画（第3次）に係る令和5年度の進行状況報告

- ・事務局から説明を行った。資料1～3、当日追加資料のとおり。
- ・【委員】事務局から説明のあった事業について、全体的に活動が進んできていると思う。消費者協会もエコクッキング等様々な活動をしている。JA道央と協力しながら市内農家の発展のための農家こだわりマップ作成、食品ロスは大変な問題と捉えており、こども食堂と連携したフードドライブを展開している。学校給食を食べる機会があり、元々北広島市の給食は美味しいと評価が高いことは聞いてはいたが、ご当地メニューで長崎県の皿うどん等出ることがあると知り、美味しく進化していることがわかった。このような会議を通して、各団体の活動を理解することが大切と思っている。
- ・【委員】北広島市の学校給食は本当の食材の味を知ってもらうため、顆粒のだしは使用せず天然のだしをとって提供している。今年度は日本のご当地メニューを給食で提供し好評だった。来年度は、北海道のご当地メニューを給食で提供予定。一手間をかけることができるのは、調理員さんの協力が不可欠。
- ・【委員】赤毛米を学校給食で食べる機会があり、こども達が美味しいと喜んで

いると聞いている。防災食育センターが今後完成するが、子ども達だけではなく一般の方も体験できるような機会はあるのか。

- ・【事務局】防災食育センターでは、施設の見学や団体での給食試食会も今後考えている。
- ・【委員】子ども達が給食を食べる時間は、どのくらいあるのか。
- ・【委員】給食準備から食べ終わる時間まで、小学生は35～40分程。実際に食べている時間は、20分程。
- ・【委員】資料1の小5男子、成人男性の肥満が多く、全国と比較しても多いことが気になり。北広島市は高血圧、糖尿病の割合も多いと把握している。対策を打たないといけないのではないか。また、資料3で3歳児健診 塩分測定（試行）の話が事務局からあったが、学校給食の塩分量は如何か。
- ・【委員】学校給食（小学校）の塩分量は平均2g後半、中学校はそれよりも多いのが実態で、減塩は意識した方が良いとは思いますが、味とのバランスもあり、難しさを感じている。できる所から徐々に取り組んでいけたらと思っている。
- ・【委員】先ほど肥満の話題があったが、最近はやせの女性を多く見かけることが気になる。ダイエットを過度に意識しすぎて、オートミールばかりを食べたりしている方も見かける。どの食べ物もメリットばかりではなくデメリットもあることやお菓子も、自然の甘味を取り入れるメリット等を知らせることも大切だと思う。
- ・【事務局】当市の妊婦のやせと肥満の割合は12.7%で同じ数値となっている。食は楽しみでもあり、食べてはいけないというものもない。自分の身体にとって必要な食べ物について理解し、どのように選んでいくのかを伝えていくことが大切なのは、やせの方も肥満の方も共通していると考えている。
- ・【委員】自身の子どもを見てみると、塩気のあるスナックや甘いものは好きだと思う。ご飯をしっかり食べる大切さや、素材からの意識づけ等の食育については子どもは学ぶ機会があるが、購入する立場として、保護者が知らないといけないと思う。保護者にどう伝えていくかも考える必要がある。
- ・【委員】子どもから保護者に伝えてもらうこともメリットが大きい。食育は食べるだけでなく、フードマイレージ等総合的に伝えることの意義が大きい。

6. その他

- ・ 次回の開催は、令和7年3月頃を予定。

7. 閉会